

平成 21 年第 3 回定例会の開会にあたり、行政報告を申し上げます。

1 北広島市長期総合計画の策定について

初めに、北広島市長期総合計画の策定についてであります。7月24日に30名の委員を委嘱し、平成32年度を目標年次とする新しい長期総合計画の策定について諮問いたしました。

公募による5名を含む30名の委員につきましては、学識経験者をはじめ、福祉、教育、文化、産業などの分野や居住地などを考慮して選任いたしました。

審議会の会長には村山紀昭札幌国際大学学長、副会長には長井敏行北海道情報大学教授が選出され、環境と福祉、教育と地域、産業と都市の3つの専門部会を設置し、平成22年4月の答申に向けて審議がスタートいたしました。

2 新型インフルエンザ対策の取り組みについて

次に、新型インフルエンザ対策の取り組みについてであります。国においては、6月19日にこれまでの運用指針が改定され、すべての一般医療機関が外来診療を行うとともに、軽症患者は原則として外出は自粛、自宅での療養、経過観察とし、基礎疾患を有し重症化の恐れのある者については抗インフルエンザウイルス薬の投与を行うなど、必要に応じて入院治療することとされたところであります。

しかし、8月に入り新型インフルエンザの感染が国内で急速に拡大し、道内でも同様の傾向を見せており、厚生労働大臣も「本格的な流行が始まった」との見解を示しております。

本市におきましても、8月中旬から市内の幼稚園1園、小学校4校、中学校3校及び高校2校において新型を含むインフルエンザA型陽性の患者が発生しており、感染拡大の防止を図る観点から、休園や休校、学年閉鎖などの措置が取られております。

また、8月28日に芸術文化ホールで予定しておりました「子育て支援ランド」につきましても、新型インフルエンザに対する予防措置として開催を中止したところであります。

なお、市といたしましては、庁舎や公共施設に手指消毒液の配置や啓発ポスターの掲示を行

うとともに、市内の福祉施設、学校等の関係機関に対して、手洗いやうがいの励行など、感染予防の徹底に取り組んでいただくよう通知を行ったところであります。

今後も、市民の皆様には、広報紙やホームページなどで新型インフルエンザに関する情報を掲載し周知を図るとともに、千歳保健所、北広島医師会など関係機関との連携を密にしながら、対応を図ってまいります。

3 ねんりんピックについて

次に、ねんりんピックについてであります。60 歳以上を中心とするスポーツ、文化、福祉の総合的な祭典であります、いわゆる「ねんりんピック北海道・札幌 2009」が、9月5日から8日までの4日間、全道の16市町を会場として開催され、21の種目でスポーツや文化の交流が行われます。

本市では、9月7日に札幌ゴルフ倶楽部輪厚コースを会場に、本市の代表1チーム3名を含め全道や全国から総勢59チーム約250名の選手・役員が参加して、ゴルフを通じての交流大会が実施されます。

選手、役員の方を市民とともに温かい心でお迎えし、交流を深めるとともに、思い出に残る大会となるよう運営に努めてまいります。

4 地域密着型サービス事業者の決定について

次に、地域密着型サービス事業者の決定についてであります。高齢者保健福祉計画・第4期介護保険事業計画において整備を予定していた、グループホーム2カ所について公募を行ったところ、東部地区には8法人、北広島団地B地区（第3・4住区）には1法人の応募がありました。

「地域密着型サービス等運営委員会」におきまして、応募法人の評価、選定等を行った結果、東部地区については、「医療法人やわらぎ」、北広島団地B地区については「(株)アクティブ・ケア」を選定事業者として決定したところであります。

なお、建設予定地は、共栄町4丁目と山手町6丁目で、いずれも平成 22 年 4 月に開設の予定となっております。

5 資源リサイクルセンター建設工事について

次に、資源リサイクルセンター建設工事についてであります。この工事は、本市のクリーンセンターの敷地内に、粗大・不燃ごみ破碎ライン、びん・缶・ペットボトル選別処理ライン、紙・プラスチック製容器包装選別処理ラインなど、1日あたり計 16 トンの処理能力を有する施設を建設するものであります。

7月17日に起工式が執り行われたところであり、来年8月の施設完成を目指し、工事を進めてまいります。

6 農作物の生育状況について

次に、農作物の生育状況についてであります。石狩農業改良普及センターの発表による8月15日現在の北広島、恵庭、千歳地区の状況は、7月は気圧の谷の影響により曇りや雨の日が多く、気温は平年に比較すると低く推移し、降水量は平年のおよそ 2.2 倍、日照時間は平年のおよそ 66%となっており、農作物の生育に遅れや病害等が発生するなど、作物の品質低下や収量の減少が懸念されております。

このため、当市におきましても8月17日に市内農業関係機関合同による作況調査を実施し状況を確認したところであります。

8月に入り暖かく好天の日が続いたことから、平年に比べ水稻では3日遅れ、小麦、馬鈴薯ではおおむね平年並みの生育となっており、回復の傾向が見受けられるとのことであります。

北海道では、天候不順による営農技術の対策を強化するため、「営農技術特別指導チーム」を設置するとともに、継続して技術対策の徹底を図っているところであります。

市といたしましては、今後の天候の推移や生育状況を見守りながら、北海道をはじめ関係機関と十分連携を図り、状況に応じ必要な対応を図ってまいりたいと考えております。

7 緊急雇用対策事業について

次に、緊急雇用対策事業についてであります。本市におきましては、離職者の雇用確保を図るため、失業者の雇用創出事業に取り組んできているところであります。

本年度はこれまで、直営事業で 15 事業・33 人・延べ 4,776 人日、委託事業で 5 事業・29 人・延べ 2,425 人日の雇用創出を図ってまいりました。

さらに、追加対策として、本年 9 月から、委託事業で 1 事業・4 人・延べ 552 人日、10 月からは直営事業で 2 事業・2 人・延べ 238 人日を予定しており、事業合計は 23 事業・68 人・延べ 7,991 人日、事業費総額で 8,303 万 2,000 円を予定しているところであります。

以上申し上げ、行政報告といたします。